

学校法人一宮女学園
修文大学短期大学部
機関別評価結果

平成23年3月24日
財団法人短期大学基準協会

修文大学短期大学部 の概要

設置者	学校法人 一宮女学園
理事長名	吉田 収蔵
学長名	佐々木 直
ALO	櫻井 理恵
開設年月日	昭和30年4月1日
所在地	愛知県一宮市日光町6番地

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活文化学科		120
幼児教育学科第一部		120
幼児教育学科第三部		100
	合計	340

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

修文大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 21 年 7 月 3 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、昭和 30 年に修業年限 2 ヶ年の家政科（入学定員 40 人、収容定員 80 人）を置く短期大学として設立された。「国家・社会に貢献できる人材の育成」という建学の精神を基盤に、生活文化学科及び幼児教育学科を設置し、「女性としての高い教養と豊かな情操を培い、併せて専門的知識と高度の技術を身に付けた社会に役立つ近代女性の育成」を教育方針とし、地域とともに歩むことを念頭に教育活動を行っている。また、教育目的は、建学の精神に基づいて明文化され、学生便覧、学園ウェブサイトに記載され、学内外に周知されている。

建学の精神、学科の教育目的、教育目標を反映した教育課程が体系的に編成されている。授業は短期大学にふさわしい内容とレベルを有し、適切なクラス規模で実施されている。学生による授業評価は、平成 18 年より定期的に実施され、結果は評価が低い授業科目については必ずしも十分ではないが、教員にフィードバックし授業改善に役立っている。授業内容、教育方法の改善については、授業公開や教育関連法規に関する教職員研修会を開催するなど積極的な取り組みが行われている。FD 委員会は、授業計画の充実、「学生による授業アンケート」、「満足度アンケート」、「教員相互の公開授業」の推進役となっている。

教員数は短期大学設置基準を満たしており、各教員は短期大学にふさわしい資格と資質を有している。校地、校舎の面積は短期大学設置基準を充足し、教育環境は適切に整備されている。各授業を行うのにふさわしい教室、備品、機器及び情報機器等が備えられ、それらの管理・整備システムも確立している。

単位認定の方法は適切であり、単位の取得状況は妥当な範囲である。退学、休学、留年等は少なく、それらの学生に対するケアも十分に行われている。

入学者選抜の方針、選抜方法は学生募集要項に分かりやすく記載されており、選抜は公正かつ正確に実施している。学習指導の体制としてクラス担任や科目の担当教員、学科長が中心になって対処している。学生相談室の体制も整備されている。進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援については、資格・検定試験の上

位級を目指して指導、支援を行うことに加え、就職に向けて公務員対策講座を行うなどの配慮がされている。

ほぼ全教員が研究成果を著書、論文、学会発表等の形で公表している。国際的活動を行う教員もみられ、ほぼ半数の教員が社会的活動を行うなど評価できる。

毎年継続して開催される市民大学公開講座開講中は、学生等のボランティアによる託児サービスもあり、全学あげて社会的活動への取り組みが推進されている。社会活動は学生の自主性・協調性・社会性等の涵養（かんよう）の場と位置付け全学生に奨励している。学生の活動では、学科・クラブ単位でそれぞれの専門性、特色を生かした社会活動、ボランティア活動を数多く継続しており、更に、教員は各種教室・セミナー等へ講師として、また、地域の各種審議会、委員会等への協力による地域貢献もしている。

理事会、評議員会、監事監査等も寄附行為に基づいて適切に運営されている。学長は教育方針や教育目標の達成を目指して教職員を率い教授会や各委員会の運営も学則及び教授会規程に基づき適切に運営されている。事務組織は業務の責任体制を明確にしており、事務室、情報機器、施設・設備等も適切に整備されている。教職員の健康管理、就業環境、就業時間についても適切に行われている。

年度ごとの事業計画と予算作成、予算執行管理等は経理規程等に基づいて処理され、計算書類、財産目録等は適正に作成されている。公認会計士の監査を受け、適正と認められている。おおむね財務体質は健全である。危機管理対策については適切に対策が講じられている。

学長を委員長とする自己点検・評価委員会が設けられ管理職を中心とする全学的な取り組みが行われている。その自己点検・評価結果に基づいて改善策を定め、実行に移している。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 平成12年に短期大学として環境教育の重要性を認識し、同年11月に全国の短期大学の中で最初にISO14001の認証を取得している。その下で、環境教育や各種環境問題への取り組みを教育目標に結び付け積極的に実施している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 全学科・コースのシラバスに「環境キーワード実施予定」、「環境ポイント（貢献・負荷）」を導入し、全教科あげて学生の環境問題への意識向上に取り組んでいる。
- インターンシップが生活文化学科3コースに学科・コース必修として、1コースは選択科目で設定されており、ほとんどの学生が受講している。実施においては受け入れ企業の開拓、アフターケア等に教員の多大な支援・指導があり、その後の就職活動にも良い影響を及ぼしている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 学生の図書館利用が活発である。その背景には学生のニーズを熟知した独自の配架の工夫や貸出の多い書籍を数多く準備するなど様々な努力がみられる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学者に対し、4月下旬に、約1ヶ月間の短期大学生生活を見つめ直すことも含め、学生間のコミュニケーションを図ることを目的とした学外でのオリエンテーション合宿を2日間実施しており、入学者に対する支援が十分に行われている。
- 学生の主体的に参画する課外活動が積極的に行われており、中でも新体操部は全日本、西日本の学生大会にも出場し、優秀な成績をあげている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 社会活動、環境改善運動、ボランティア活動等の全学生への奨励、学生及び教員による継続した数多くの活動実績は地域貢献度が高い。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- ウェブサイトと大学案内では、建学の精神、教育目的の記述が判明しにくいところに記載されている。幼児教育学科が平成23年4月より男女共学となることを期に、簡潔明瞭に表現されることが望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 教育の実績や効果の確認を目的として、卒業生との接触や同窓会との連携等を積極的に実施することが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

昭和16年の財団法人一宮女子商業学校設立に際し、以下のように記されている。「本学園は女性の先天的な特性と、家庭、国家、社会において果たすべき人間的な使命に即応した教育を施し、強健な身体を育くみ、明るく、つつましやかな品性をそなえ、家庭円満に国家、社会に貢献する女性を育成することを本学園の建学の精神とする」と建学の精神は確立している。

また、生活文化学科、幼児教育学科第一部、幼児教育学科第三部それぞれの教育目的は、建学の精神に基づいて明文化され、学生便覧、学園ウェブサイトに記載され、学内外に周知されている。平成16年度以降、自己点検・評価委員会が中心となり、建学の精神を反映する教育理念、教育目標について点検・確認している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

設置されている学科・コースには、建学の精神、学科の教育目的、教育目標を反映した教育課程が体系的に編成されている。専門教育との連携を視野に入れた教養教育と多様な免許・資格取得に向けた専門教育は十分な内容を備え、授業は短期大学にふさわしい内容とレベルを有し、適切なクラス規模で実施されている。授業内容、教育方法及び評価方法等を示すために「授業計画」が作成され、年度初めに学生全員に配布・周知されている。シラバスに「環境キーワード実施予定」、「環境ポイント(貢献・負荷)」を導入するなど独自の工夫がみられる。学生による授業評価は、平成18年より定期的実施され、結果は教員にフィードバックし授業改善に役立ててはいるが更なる活用が望まれる。授業内容、教育方法の改善については、授業公開や教育関連法

規に関する教職員研修会を開催するなど積極的な取り組みがされている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教育の実施体制は十分に整備されている。教員数は短期大学設置基準を満たしており、各教員は短期大学にふさわしい資格と資質を有し、採用等も規程に基づき適切に実施されている。教員は授業、研究、学生指導等に意欲的で、専任教員の年齢構成のバランスもよく、教育実施に当たる責任体制等、教員組織が整備されている。校地、校舎の面積は短期大学設置基準を充足し、教育環境は適切に整備されている。各授業を行うのにふさわしい教室、備品、機器及び情報機器等が備えられ、それらの管理・整備システムも確立している。校地と校舎は安全性・利便性に配慮されているが障がい者への対応の改善が期待される。図書館は広さ、蔵書、座席数等は十分であり、管理システムも充実し、蔵書数の増加等に備えた広さも確保されている。図書購入予算は十分あり、購入選定、廃棄等のシステムも整備され、学生利用に配慮した独自の配架等、図書館利用促進の様々な努力がされている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

それぞれの授業の単位認定の方法は適切であり、単位の取得状況は妥当な範囲である。担当教員による学習評価は適切に行われているが、科目によっては単位取得率の低いものがある。担当教員は授業終了後の学生の満足度に配慮している。退学、休学、留年等は少なく、それらの学生に対するケアも行われている。在学生に対する資格・免許取得の取り組みと実績も十分である。専門就職の割合は、就職決定者の8～9割と非常に高い。就職先からのアンケート調査結果ではおおむね良好な評価を受けているが、厳しい評価も散見される。また、教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触や同窓会との連携等が特に行われていないため、この点についての改善が望まれる。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学希望者に対しては、建学の精神はウェブサイト、学ぶ内容については大学案内に紹介されている。入学者選抜の方針、選抜方法は学生募集要項に分かりやすく記載されており、受験生からの問い合わせ等に対しては、フリーコールを設置して入試広報課が適切に対応している。選抜は公正かつ正確に実施している。また入学者に対しては、入学前教育、入学後のオリエンテーション・学外オリエンテーション等を実施している。学習や科目選択に関してガイダンス・オリエンテーションを実施しており、学習指導の体制としてクラス担任や科目の担当教員、学科長が中心になって対処している。学生相談室の体制も整備されている。進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援については、資格・検定試験の上位級を目指して指導、支援を行うことに加え、就職に向けて公務員対策講座を行うなどの配慮がされている。

評価領域Ⅵ 研究

全教員が多忙な状況下にあるものの、ほぼ全員が研究成果を著書、論文、学会発表等の形で公表している。国際的活動を行う教員もみられ、ほぼ半数の教員が社会的活動を行うなど評価できる。教員各個人の研究活動の状況は毎年度の紀要に掲載されている。過去3ヶ年の科学研究費補助金の申請数は4件、採択数は0件であり、平成20年度に「その他の外部研究資金」に1件申請し採択されているものの、全体的に実績があがっているとはいえず、教員の研究活動の更なる活性化が期待される。規定により教員の研究にかかわる経費は妥当な額が支給されており、また研究成果を発表する場として紀要が確保されている。研究にかかわる機器、備品、図書等、研究を行うにふさわしい研究室が整備されており、研究時間が確保されていることから、研究活動の活性化のための条件整備が行われていると評価できる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

年に8回開催の市民大学公開講座は、学生等のボランティアによる託児サービスもあり、毎年継続して実施されるなど、全学あげて社会的活動への取り組みが推進されている。社会活動は学生の自主性・協調性・社会性等の涵養の場と位置付け全学生に奨励している。学生の活動では、学科・クラブ単位でそれぞれの専門性、特色を生かした社会活動、ボランティア活動を数多く継続しており、また、環境教育の一環として地域環境美化運動へのボランティア参加は当該短期大学の地域貢献における特徴でもある。さらに、教員は各種教室・セミナー等へ講師として、また、地域の各種審議会、委員会等への協力による地域貢献もしている。過去3ヶ年、学生の海外教育機関等への派遣、留学生受け入れ実績はないが、短期研修として平成21年度にはパリ海外研修が実施されている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事会は10回開催され適切に運営されている。評議員会、監事監査等も寄附行為に基づいて適切に運営されている。学長は教育方針や教育目標の達成を目指して教職員を率い教授会や各委員会の運営も学則及び教授会規程に基づき適切に運営されている。

事務組織は業務の責任体制を明確にされており、事務室、情報機器、施設・設備等も適切に整備されている。

教職員の健康管理、就業環境、就業時間についても適切に行われている。

評価領域Ⅸ 財務

年度ごとの事業計画と予算作成、予算執行管理等は経理規程等に基づいて処理され、計算書類、財産目録等は適正に作成されている。公認会計士の監査を受け、適正と認

められている。

学校法人全体は支出超過となっているが、短期大学部門は収入超過である。収支改善の諸施策が実行されている。

短期大学設置基準に適合した施設、設備が備えられている。また、危機管理対策についても適切に対策が講じられている。

利害関係者の請求に応じて財務諸表は公開している。

評価領域 X 改革・改善

平成 5 年に「自己点検・評価委員会規程」を制定した。それに伴い、学長を委員長とする自己点検・評価委員会が設けられ管理職を中心とする全学的な取り組みが開始された。

具体的作業では、各常設の委員会からの報告を受け、ALO と短期大学事務局長が中心となって取りまとめて報告書を作成している。その自己点検・評価結果に基づいて改善策を定め、実行に移している。

FD 委員会は、授業計画の充実、「学生による授業アンケート」、「満足度アンケート」、「教員相互の公開授業」の推進役となっている。さらに、平成 20 年の報告書に対する専任教職員の意見を求めるなど、全学的な取り組みとする努力は評価できる。